

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズアイランドワイキキ		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日		～ 2025年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数) 21名
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日		～ 2025年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 27日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団プログラムでは、五領域を満たす活動内容となっており、同じ活動でも児童の実態に合わせて難易度を複数用意するなど柔軟に活動している。また個別課題においても、国語・算数・作業課題等、それぞれの児童の実態に合わせて活動している。	個別課題では指導員が横につき、ご利用児童の様子を観察し、その内容や難易度が適切であるかを確認し、フィードバック用紙を活用し個別課題の担当者が把握しやすい環境を整えている。	ご利用児童の日々の様子や、個別課題、プログラム中の様子、指導員の声掛けやアプローチに対する反応はどの記録をつぶさに取り、定期的カンファレンスを行うことで、より質の高い支援が可能になると考える。
2	プログラムで使った道具や、遊具の片付けやプログラム前後の挨拶、おやつ準備など、できるを増やすための活動、支援を行っている。	褒めて伸ばすことを意識し、指導員は手着る限り手伝わす声掛けにとどめている。プログラムの中で、片づけや、テーブル吹き、配膳といった実際に行う動作を身に付け、実践することを、ご利用児童の混乱を減らす工夫をしている。	定期的に行うカンファレンスの他に、申し送りや共有の時間を確保し、ご利用児童それぞれの理解度や達成度、サポートが必要なところなどの確認を行うことで、より質の高い支援につながると考える。
3	ご利用児童が本人の力で気持ちの切り替えや感情のコントロールができるようになるための支援を行っている。	共感し寄り添いながら、声掛けを行うことを徹底し、児童の実態に合わせて言葉選びや伝え方で支援を行っている。ノンバーバルコミュニケーションを行うご利用児童には絵カード等、実態に合わせたツールを活用している。	気持ちの切り替えや正しい行動ができた時に、そこに居合わせた職員が誰でも褒めることができるよう、日頃からご利用児童の観察と、共有を全ての職員が関わることを理想であると考える。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ご利用児童の学年が上がるにつれて、フロア内・支援内容等がご利用児童に合わずに中学生から高校生に進級・進学するタイミングで退所するケースが散見されること。	ご利用児童の成長に伴い、フロアが狭く感じる。ご利用児童の年齢の幅が広く、特に集団プログラムにおいて、レベル設定が難しいこと。	必要に応じて、室内活動と屋外活動を組み合わせることで、フロア内が狭く感じてしまうこと、ご利用児童に合わせて集団プログラムのレベル設定を柔軟に変更することにつながる。また、同じ活動内容でもご利用児童の実態に合わせてレベル分けを行うことで、対応を図る必要がある。
2	曜日によりご利用児童の人数に差があり、定員に達しない曜日があること。	既存のご利用児童、新規問い合わせを受ける希望者のかた、どちらも希望されている曜日が被り、受け入れを増やすことが困難であること。	キャンセル待ちのご利用児童に積極的に連絡を入れてご利用していただく機会を増やす必要がある。また、空きのある曜日を積極的にご連絡し、ご利用回数の増加を図る必要がある。
3	学校や他事業所、地域との交流がほぼないこと。保護者会など、保護者と職員、保護者同士の交流を図る機会がないこと。	当事業所だけでなく、学校の教職員や他事業所の職員の方も、多くの業務を抱えていることから、サービス担当者会議を頻繁に行えないこと。また、保護者の皆様も勤務されている方が多いこと、ご自宅からの距離がある方も在籍していることから、開催が難しい状況である。	サービス担当者会議に、管理者・児童発達支援管理責任者だけでなく、指導員にも参加を促すことで、交流のきっかけを図る必要がある。保護者会等は開催する場合は、保護者様のご意見を慎重に聞き取りし、対応を行っていく必要がある。